

今日の説教のポイント <使徒言行録 11 章 1-18 節>

「さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。ペトロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難して、『あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした』と言った。」(1-3)

使徒たちが今の私たちと同じ異邦人の信仰を受け入れられなかった。この問題は今起こっている問題を通して考えてみたいと思います。

私はかつて「性同一性障害」について調べ、当事者であってキリスト教信仰を持たれて今は伝道者となられている方たちとも会い、文章にまとめたことがあります。お会いした際に、まずこういう話をされました。「ここに私たちと同じような人たちで作っている雑誌があります。その読者の欄に（一冊の！）、教会に行ったが自分のいる場所ではないと思った、と三人の人が記しているのです」。「性同一性障害 (gender identity disorder)」、自分の性について、体が示すものと心が認識するものが異なっている人たちのことを指す表現です。今でこそ、映画『フィラデルフィア』などを通して当事者の苦悩が共感されるようになってきましたが、まだまだ性同一性障害であるが故に当然起こる同性愛（同性に性的愛が向くこと）を汚らわしいものとしてしか理解できない人々が多いのです。キリスト教界でも世界中で、「聖書に『女と寝るように男と寝てはならない』とあるから罪だ」と叫ぶ人たちはなお多いのです。苦しみの中でイエス・キリストに出会い、救われ、世のために生きている当事者も多く、伝道者になっている人がいるにもかかわらずです。今日の箇所に出て来る言葉と、再び同種の問題が起こった際にペトロが語った言葉を挙げておきたいと思います。

「私は言いました、『主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にすることがありません』。すると、『神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない』と、再び天から声が返って来ました。」(11:8-9)

「(神は) 彼らの心を信仰によって清め、私たちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。それなのに、なぜ今あなたがたは、… 私たちは、主イエスの恵みによって信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」(15:9-11)

苦悩を負う当事者が教会に来られて、あなたの横に座られたらどうしますか？ その人の苦しみとイエス様ならどうされるだろうかということから考えてほしいと思います。教会全体がそうなりますように。